

市議会モニターとの意見交換会 ～あなたの声と共に開かれた議会を目指します～

令和3年3月16日（火）10:00～12:00

次 第

- 1 開会 中本議長挨拶
- 2 市議会モニターからの提言
- 3 休憩
- 4 意見交換
- 5 閉会 林副議長挨拶



○市議会モニター出席者：阿川民生、古賀和人、竹田裕、田沼一彦、中村逸也、深來登、山根成紀

1 市議会モニターからの提言

【発表者】 竹田 裕 さん



私は、昨年から市議会モニターの一員として事業に関わらせて頂いており、今年で2年目となります。今まで市議会議員の皆さんは、選挙活動などでお会いしたことはありませんでしたが、この事業を通して普通ではできない貴重な体験を一緒にさせて頂くことができました。テレビで本会議場の様子が流れているのを観たことがありますが、初めて私が本会議場に足を踏み入れた時には、想像を絶する広さと部屋の雰囲気には圧倒されました。

モニターの意見交換会では、メモを取るのに必死になるくらい、たくさんの意見が飛び交いました。私に話を振られた際、以前、別の事業で「光駅利用者ワークショップ」に参加させて頂いたのを思い出しました。「駅のトイレがバリアフリー対応とってないなかったため、だれでも快適に使用できるトイレにしてほしい。」という意見を言わせていただきました。また、そのことを課題として取り上げ、改善策を考えていただき感謝しています。貴重な体験をさせていただき、ありがとうございました。

私は、このまちが好きで、生れてからこの21年間ずっと光市民として過ごしてきましたし、この先もずっと住み続けていきたいと思っています。光市の人もそれ以外の人も、良いまちだと思ってもらえるような活動があるのならば、積極的に参加したいと考えています。

○中村議員



私も本会議場の雰囲気には圧倒された中の一人で、慣れるまでにはまだ時間が掛かりそうです。竹田さんが述べられた、駅トイレのバリアフリー未対応について、改善の要望をされたことは素晴らしいことだと思います。特に、「誰でも快適に」という点が重要だと私も考えます。ちょっとした段差も不便を感じる方もいらっしゃるのでは、私自身もそういった目線でこれからも注視して、活動していこうと感じました。これからも光市に若い人の力が必要ですので、

よろしくをお願いします。

○森戸議員



議会の環境経済委員会で、駅のトイレのバリアフリー化や、北口トイレの設置も取り上げられ、議員皆で議論し計画に盛り込まれました。若い人の意見を取り入れ、実現に向けて努力していくことが、このまちを好きになり、住み続けたいと想う心につながるということが、竹田さんの発表で分かりました。光市議会は、若者の意見を積極的に取り入れるため、高校生との意見交換会を開催しています。また、様々な場で、若い人たちの意見を取り入れようという、提案がされています。これからも、意見を取り入れるための手法など、竹田さんにご提案いただきたいと思います。最後にはお願いですが、若い方の投票率が低い現状があります。年齢が高くなるほど投票率が高くなり、そういった多いところの意見を聞くというのが、現在の流れなので、声を積極的に上げていただき、同世代の投票を促してほしいと思います。そうすればもっと良いまちになっていくと思うので、是非ともお願いします。

【発表者】 深來 登 さん

新型コロナウイルス感染の予防に対処しながらの光市の未来について、考えを述べます。新型コロナウイルスがもたらす光市経済への影響はいかかなものか。消費支出について、スーパー等の販売額は前年度比13.5%の減少、企業の経営環境は、負の影響のあるところが70%。県内の雇用状況は、あまり変化が無いものの、有効求人倍率は、去年は1.4倍で、今年4月は1.1倍に低下すると予想されています。



生活保護認定件数も昨年同月比4件から8件と倍増し、バス事業の収入も5月では、昨年同月比45%~65%減と聞いています。いわば、生活様式が変わり、移動形式が公共交通から自家用車にシフトの傾向となり、生活の回帰は難しくなったと推測されます。こうした状況下で、今後、所得税や法人税、消費税等の大幅な減収は明らかで、大変厳しい財政運営が見込まれています。我々光市民も知恵と工夫が求められており、議員のみなさんと一緒になって、新しい未来を作り上げていきたいと思っています。このような生活様式が変化する中で、市議会議員の皆様の未来を見越した志向の変換と、勇気ある行動に期待します。

今後の課題として、新型コロナウイルス感染第4波が発生することを予測して、マスクや医療器材の備蓄、避難所の運営やスペースの確保、市立病院での体温チェックやマスクの徹底、オンライン会議の導入、学校でのタブレット1人1台導入に向けた環境整備、高校生の就職支援、さらなる地域購買や地産地消の推進が求められています。

この3月の議会において、令和3年度予算に再度、市民生活・地域経済応援商品券が計上されましたが、地域活性化のために役立てたいと考えています。

光市の未来についてですが、20年後の光市は人口3万人台、高齢化率約40%、14歳以下の人口約10%と予測されています。暮らしの安全・安心や利便性の低下、コミュニティの希薄化、まちのにぎわい低下、人手不足や財政負担の増大等、市政が重要な局面を迎えるものと予想されています。光市の特徴をデータで示すと、介護認定率は14.7%と県内でも最も低く、健康寿命も長く、持ち家比率は県内トップ、道路舗装率もトップ、母乳育児率

も約70%で全国平均30%の倍、水道水は世界的に有名な日本酒「獺祭」も使うほどおいしい水です。さらに、山口大学教育学部附属光小中学校も立地され、県内唯一の2学期制、市内小中学校のコミュニティスクールの取組みは、全国からも視察が相次ぐほど注目されています。地価も安く、温暖で晴れの日が多く、犯罪も少なく、戸建てでゆっくり過ごせて、健康になれる子育て支援の充実した教育力の高いまちです。目指すべき方向性は、子育て支援や住環境が充実した、文教住宅都市だと思います。市会議員の皆様は市民との対話により、市民が何を思っているかキャッチし、自信を持って、市民を導いていただくようお願いいたします。

最後に一つだけ、3月議会で残念なことです。一般質問の冒頭において、議員の発言を大勢で動議を出し、全文を取消させることができました。これは言論封鎖、言論弾圧と言わざるを得ません。不適切な部分のみを削除すればよかったと考えます。発言内容について、議員の皆様は事前にご存じだったのではないのでしょうか。問題はその間、議会が長時間空転し、市長をはじめとする執行部を何もできない状態にしたことで、市民の税金の無駄使いと言えるのではないのでしょうか。そういった面を考え、効率の良い議会運営をお願いします。

○清水議員



光市は非常に住みやすい特徴があるということでしたが、未来については人口減少・少子高齢化などの問題から、市政も重要な局面を迎えるのは必至であると私も考えています。中でも直近の課題として深來さんも述べられた、新型コロナウイルスへの感染対策が喫緊の課題だと思っています。一方で、先日の一般質問でも取り上げたとおり、経済対策も非常に重要で、短期的な対策だけでなく、中長期的な対策が必要

だと考えています。市内の経済団体の方と話しをしていると、商品券等の支援も瞬間的にはとてもありがたいが、商売人として頭をひねって、何か、その先に繋がるような支援もしてほしいという声も聞きます。そこで私は「希望の持てるような支援」が重要であると感じています。その為には、市内業者の実情を把握し、光市独自の支援策を実行することが重要であると思っています。最後に、目指すべき方向は、子育て支援や住環境が充実した文教住宅都市だとおっしゃいましたが、私もそう思いますし、これらの事を踏まえて頑張りたいと思います。

○田中議員



深來さんが述べられた光市の良い面は、市民一丸となってPRしていかなければいけないと感じました。一方で悪い面として、特にコロナ禍での大変厳しい財政運営が見込まれており、全市民の知恵と工夫を求められることを覚悟しなければなりません。そして、「市議会議員の将来を見越した志向の変換と勇気ある行動に期待します。」とのことですが、まさにそれが声なき声を市政に届け、改善し、未来に導いてい

く議員の役目だと考えており、議会全体として取り組んでいきたいと思っています。最後に、先日の一般質問での議会運営について、苦言をいただきました。結果的に議事進行が大幅に遅れ、傍聴されている皆様、執行部の皆様を大変お待たせしてしまったことには、申し訳なく思っています。しかし、言論の府である以上、発言は自由である一方、それに伴う責任はあります。議会としては、地方自治法に沿って運営しており、動議が出され、合議体として協

議を重ねて民主的に判断し、その結果として時間が掛かったとご理解いただきたいと思えます。今後は、円滑な議事進行、効果的な議会運営を心がけていきたいと思えますが、一点だけお伝えしたいのは「発言内容を事前に知っていたのでは」というお話でしたが、事前に承知してはおりませんので、ご理解をお願いいたします。

【発表者】 田沼 一彦 さん

私は、平成17年からまちづくり市民協議会に参画し、第一次総合計画の立案と検証、並びに第二次総合計画の立案に携わりました。平成21年から行政改革市民会議に参画し、多面的視点を持って様々な意見提言をしましたが、相変わらず、変わりませんでした。また、平成25年に制定されたコミュニティ基本方針についても、疑問点が残るものでした。これらのことから、PDCAサイクルが上手く機能していないように感じました。



そこで「Ph. P 手法」これを計画立案の際に再確認してほしいと思えます。第三次総合計画が策定されますが、絵に描いた餅にならないようお願いしたい。他市との格差がかなりあるように思えますし、市民とのチームワーク不足が残念です。地方創生自治体のPDCA検証を再構築するため「Ph. P 手法」の導入を提案します。PDCAの特にPLANの部分に非常にあいまいです。具体的には「現状・原因・目標・手段」のところを確実に踏み、集団意志決定に進むシステムが重要だと思えます。

次に市民と議会との意思疎通の充実に向け、政策サポーター制度の導入を提案します。議会の合意形成には「議員のやる気」と「議長のリーダーシップ」が必要で、それから市民の理解を得る。これができないと市民との意思疎通ができないと思えます。

最後に、一般質問の空転の問題について、私の見解を述べます。お配りした資料にあるように、3回空転して、4回目に出口に出たということだと思えます。これは問題点がどこにあるか、反省会をやらないとまた同じことを繰り返します。私は議会運営委員会の役割が十分に発揮できなかったことが問題だと思えます。やはり、規律、懲罰を考えながら、また、市議会議員は市民の代表であることをよく考えながら行動していただくように要望します。

○林副議長



本会議一般質問の空転について、私の見解を述べさせていただきます。一般質問での議事の進行の中で、質問を一時中断し休憩中、議会運営委員会に付託し議論を重ねました。このようなことで、言論の府である議会の秩序を守ることができなかったことに対し、議員として深く反省しております。今後も市民の皆様の信頼に応えるべく、様々な課題に対し真摯に取り組んでいく所存でございます。

○笹井議員

市議会においてもPDCAサイクルの考え方は当然、重要であると思えます。ただ、光市議会は「光市議会基本条例」「地方自治法」に則って運営しております。従前は、執行部の計画をそのまま了解することもありましたが、現在は、主要な計画を議決事件に定め、議決するという一方で、



議会も一定の責任を持つようにしています。計画の実行は執行部が担っていますが、計画の評価と改善は議員間で活発な議論が行われた後に、議決しております。また、議決状況は光市ホームページに公表しており、取り組みを通じて、議会が何をしているのかを市民に周知しています。

提案のあった政策サポーター制度についてですが、全国的に見てもまだ歴史の浅い制度です。一方で光市議会のモニター制度は、山陽小野田市や防府市をはじめとする先進都市の取り組みを確認し、研究を重ねて導入に至りましたし、アドバイザー制度も制度として作っています。本市議会のモニター制度は他市から見ると、先進的に見えるようで、他市から勉強にいられた事例もあります。これまで、いろいろ施行錯誤してきましたが、引き続きモニターの皆様の意見が明確に反映されるような形で、取り組むことができればと思います。田沼さんにはモニター制度が始まる前から熱心に市議会を傍聴していただき、7年前には当時の市議会のホームページの記載内容に幅広い指摘をいただき、全面的な再構成に繋げることができました。遅ればせながらお礼を申し上げます。

2 市議会モニターとの意見交換 要点筆記

【市議会モニター】山根 成紀 さん



議員の皆さんが政治家を志したきっかけは何だったのか、初心を忘れることなく持ち続けてください。議員の皆さんの中には商売をされている方もいらっしゃいますが、金儲けのためでなく、こんな事業を立ち上げれば助けることができる、喜んでもらえるということで、始められたのだと思います。松下幸之助さんは「商売は感動を与えることだ」とおっしゃっていますが、この気持ちが大切です。

投票率の低下については、議員の皆さんからの情報発信が少ないことから「何をしているのか分からない」「公約通りに活動しているのか見えてこない」「誰が議員になっても光市は変わらない」ということが原因のように思います。市民は、議員さんと日頃、話ができないので、見た目で「好き嫌い」等の小さな世界の中に留まっています。市民に政治は思った以上に身近な存在だと感じてもらうためには、地域の事等に興味を持たせることが必要だと思います。これからも市民に寄り添い、多くの意見を聞き、困りごとを解決し、市民の生活をより良くしてください。自分が犠牲になっても市民を守るという強い生き方で、信念を貫いていただくようお願いします

○仲小路議員

心掛けなければならない、大事なことを言っていただき、決意が新たになりました。いろいろと困っている方の事が、いかにわかるかが議員の一番大事なことだと思います。

○笹井議員

私も商売をしていますが、生まれ育った海商通りが空き家だらけになるのを見て、風光明媚な自然を活かして何とかできないかということで、19年前から始めました。私は、議員になる前に合併協議会に参画し、合併計画の策定に携わりました。その際、地域の方々との意見交換を通じて感じた、ネガティブな部分への怒りのようなものが原動力になりました。この初心は忘れず、続けようと思っています。

【市議会モニター】中村 逸也 さん

本会議の質疑は大きな問題や難しい問題だから取り上げられると思いますが、継続審議となることが多いので、具現化するまで取り組んでもらいたいと思います。浅江地区では継続案件が山積しており、例を挙げてみますと「瀬戸風線の令和一桁台での完成をめざす」「光駅拠点整備事業に取り組む」「旧光市立病院跡地整理」「令和3年度閉校Y I C保育&ビジネス専門学校の方針」「光丘高校跡地」



「大方踏切アンダーパス」等いろいろあります。県事業やJ R関連など難しいことも加わっていると思いますが、検討中、調整中、方向性を出しましたということで終わりにするのではなく、具現化するまで取り組んでいただきたい。他にも島田川流域の水害時の水門の管理、災害時の取組みをどうするのか、専門学校の跡地への浅江コミュニティセンター移転の要望は協議されたのか等、具現化を目指して、進捗状況もフォローしていただき、問題解決まで切れ目のない活動をお願いします。

○清水議員

今現在、光市は様々な課題を抱えており、これらの課題を一つずつ解決・具現化していくことが議員の役割の一つだと思います。一方、これらの課題を解決していくためには、執行するための財源が必要です。例えば、島田川の工業用水を周南市に販売して財源を創出し、中学生までの医療費無料化の所得制限が撤廃されました。これがいい例で、オフェンス面として経済を回し、しっかり市としてお金を稼ぐ、ということを推し進めていかなければならないと考えています。

○早稲田議員

先程ご提案のあった6点については、浅江地区選出の議員として日々、心配しています。新人議員なので、一般質問でもまだ、深く突っ込めていませんが、進捗状況を追いかけて、進行中、調整中で終わりにしないで、問題の解決が具現化するよう頑張りたいと思います。

○田中議員

中村さんは、浅江地区の連合自治会長として、皆さんの声を集約できる立場でいらっしゃいます。浅江地区では以前、コミュニティ協議会が主体となり、要望書を取り纏めJ Rに提出し、長年の課題を解決されたことも存じております。引き続き、多くの市民の声を届けていただきたいと思います。また、財源確保等含めて、どうするのかというところは、議会も一緒に考えていきたいと思っています。

【市議会モニター】古賀 和人 さん



本日、モニターの出席率が良くなかったのは残念です。市民がついていけない議会や行政では、いずれ市が滅びると思います。市民の代表として、声を行政に届ける役割をより一層自覚していただきたいと思います。また、実施していることの結果や経過を、市民に知らせることが一番大事で、それが市民を巻き込んだ政治につながり、そのような市民が参画した形の議会運営が望ましいものと考えます。

議会モニターとして2年を終えて、自分の気持ちが折れてしまうため、3年目の議会モニターに応募するか悩みました。観ていても直らない、良くならないというような疑心暗鬼です。

しかし、光市民として豊かで、安心・安全な光市と言われている市長の言葉に沿う形で、実現に向かえばよいと思います。

先日の一般質問で、若い世代の投票率の低さが取り上げられましたが、それに対する執行部の回答内容は若い人達の投票実績を掘っておらず、非常にさみしく感じました。しっかりと分析するのが、選挙管理委員会の務めではないでしょうか。それぞれの地区の分析を実施し、若い世代の投票率が低いところにはどうやって興味を持たせ、選挙に参加させる方法を示すかを考えるのが、選挙管理委員会ではないでしょうか。一般質問の回答は通り一辺倒の回答にしか聞こえませんでした。この度、7名の新人議員が入られ、活性化しており、古参議員の方も刺激を受けていることではと思いますが、これからも若い力は大切であると思います。我々市民が求めているのは、できない理由ではなく、どうしたら実現することができるのかということ、深堀して追求していくことです。そういった活動が市民の目に写り、声が大きくなり、選挙の投票率の改善にも繋がっていくのではないのでしょうか。

P D C Aサイクルの内、Pはプランですが、Dはドリーム、Cはチョイス、Aはアジャストとなっていると私は解釈しています。本来ならば、総合的な施策を考えて、総合戦略に基づいて実施をするのがDであり、総合施策の成果を検証するのがC、見直しや改正がAであるはずですが。現実には、プランの後に、まだ夢を語っています。また、特別委員会を立ち上げながらどんどん深堀していくべきですが、アクションを起こすのが非常に遅れているので、そのあたりを考えて市民の代表である議員さんには頑張ってください。

また、モニターという制度から、サポーター制度に活動の幅を広げるのはいかがか提案もさせていただき、一部回答もあったかと思いますが、そのあたりの明確な回答がありません。今後、モニター制度がどうなっていくのか不安があるので、お聞かせいただきたいと思います。

○清水議員

若い方の投票率が低い点について、私も、若い方の議員ですが、選挙戦の最中に同級生や若い世代に必死に声をかけてきました。その中で、初めて選挙に行った方から、どうやって投票すればいいのかといった声も頂きました。立候補する人間がしっかりとマニフェストを掲げて、若い人に声をかけ、当選したら進捗状況を発信するなど、自身のネットワークを充実させることが、投票率を上げるために議員がすべき役割の一つだと考えます。

○小林議員

投票率についてですが、私は労働組合出身議員であるため、若いころから関心を持ち、責任をもって投票を行ってきました。課題として、周りの若い世代をみると、選挙に行ったところで何も変わらないと考えていることや、政治が見えないという現状があります。これに対して、私が議員として活動している内容をしっかりと周知をしていくことが大事だと思います。そして、何事も自分の事として捉えることが大事であると考えています。議員という立場に立って、市民の声を市政に届けることを約束したいと思います。また、先ほどの提案で、できない理由を考えるより、どうしたら実現できるのかが大事であるということでしたが、これに私も共感しており、今後もこの視点を忘れずに活動していきたいと思っています。

○仲小路議員

私は66歳ですが、まだ青年のつもりで、まず若いという意識で戦うことが大事であると考えています。そして、本日は竹田さんに来ていただいています。市内のたくさんの青年の方と、いかに交流ができるかがポイントだと思います。また、いろいろなことがなかなか実現しないという指摘がありましたが、これは絶対にやり遂げるという意味があって初めて

できるものであると考えています。困難があればあるほど、喜んで頑張るという心意気で取り組んでいきたいと思えます。執行部の方も素晴らしい能力が発揮できない部分がありますが、議員も一緒になって今後とも全力で取り組んでいく所存です。

○中本議長

市議会モニターの役割に関して、我々議会としても受け止めながら、提言等については、各所管委員会で議論をしながらその方向性に向かってしっかり頑張っているつもりです。しかし、色々な会議規則や申し合わせ等クリアしなければならない問題等もあります。しっかりと色々な提言を踏まえながら、市議会発展のために頑張っていく所存ですので、今後もしろいろなご提言をお願いいたします。

【市議会モニター】深來 登 さん

昨年7人の新人の議員が入り、年齢的にも若くなりました。20歳台の議員もおられますが、その方々が40歳・50歳になった時の光市をどのように描くのか、どういった光市を作りたいのか、そういった気持ちをもって、議員活動に勤しんでいただきたいと思えます。また、古参の議員さんは、残されている問題など若い議員にアドバイスし、指導していただきたい。予算委員会でも若い議員の質問が浅く感じるのも、もっと内容を勉強して深い質問をしていただきたい。

2年間議会モニターとして関わる中で、次の、7つの項目についてうまく進んでいないと感じます。「光総合病院の市民病院としての役割の拡充」「光駅前周辺の利便性の改善」「公共交通ネットワークの整備」「小中一貫教育・教育のIT化等に関する問題」「公共施設の改善」「地域包括ケアの充実」「コミュニティ活動の促進」以上の7点です。特に新人の7名の方はもちろんだが、お金が掛かるから難しいではなく、どうすれば安くて上手にできるか考えていただきたいと思えます。

○西村議員

私は先日、28歳となりましたが、先程、20年・30年先の光市を考えて行動いただきたい旨の発言がありました。私が議員の中で一番時間を持っている、可能性を持っていると勝手に思っております。様々な政策が絵に描いた餅で終わらないように、実現に向けて訴え続けていく、その時間も私が一番持っているという意味でも、私に課せられた役目であり、20年、30年先も、私たちのような若い人間が住み続けたいと思えるような政策を進めていきたいと強く思えます。先程の7つの課題の内、光駅周辺の整備は私も非常に大事だと考えており、選挙を戦う際にもそのことを訴えてきました。一般質問でも取り上げましたが、光駅から虹ヶ浜が分断されているように感じています。光駅の整備基本計画が進んでいるので、その後は光駅周辺であると思っています。光駅と虹ヶ浜の間を繋ぐ自然環境を活かしつつ、商業施設や都市公園等、色々な方法を活用して、市内外の方に愛される光駅周辺になるように問いかけ続けるつもりです。それから、地域の移動手段の問題や、身近な助け合いの精神、コミュニティの大切さも認識いたしましたので、これからも勉強し、頑張っていきたいと思えます。

【市議会モニター】古賀 和人 さん

シティプロモーションの促進や交通手段などの確保については、室積の方でも実施してほしいという声が上がっていますが、具体化はしていません。室積の人口は光市でも2番目に多いわけですが、置き去りにされていると感じている住民が多くいます。室積地区の発展性

も考えていただきたいと思います。海商通りのボランティアガイドをする中で、遠くから来た方から、素晴らしい場所なので、もっとPRをしてほしいと言われることが多くあります。このことから考えられるのは発信力が弱いということです。光市広報には多くのページがシティプロモーションに割かれています。室積のことについてはほとんど触れられておらず、大変さみしい思いです。光市全体を見渡して、良さをもう一度分析して、発信していただきたいのですが、どう思われますか。

○西村議員

シティプロモーションについては、室積の伊保木地区が移住定住のモデル地区として取り上げられており、移住定住を進めていく事業もあります。確かに、浅江などのエリアに中心が置かれているように、個人的には見えなくもないですが、そういった意見を受け、光市全体を見ていけるように、これからも活動していきたいと思います。

○西崎議員

室積地区においては、以前と比べて買い物できる場所や飲食をできる場所が減少しました。皆様からも室積出身議員は多いのに、寂れる一方だという指摘を多く頂きます。私も一般質問で公共交通の話を取り上げましたが、室積が抱える諸問題は、一朝一夕には解決できません。室積には、活性化の問題、移動手段の問題等ありますが、事あるごとに取り上げて、執行部と前向きに地道にやっていくしかありません。室積の皆様からのあきらめの声を非常に多く耳にしますが、室積選出の議員は3人おり、事あるごとに質問しますので、あきらめずにご期待いただきますようお願いいたします。



参加いただきました皆様、ありがとうございました。

光市議会議員一同